

プライマリー

金融論入門

監修：浅子 和美（一橋大学経済研究所教授） 山澤 成康（跡見学園女子大学教授）

DVD

全10巻

金融論入門



激動する現代経済の大きな要因の一つは金融。金融は安定した経済活動のために不可欠な経済の大きな柱です。その機能に支障をきたすと、たちまち経済活動は混乱、停滞し、社会や暮らしに大きな影響を及ぼすため、世界は金融から目を離すことができません。

「プライマリー金融論入門」は、金融とそれに起因する現象、金融と実社会、金融と私たちの暮らしの関連性について考えていく金融論 (Monetary Theory) の入門者向け映像教材です。分かりやすいストーリー、実写映像、図版、グラフなどを用いて各テーマを、興味深く解き明かします。金融とは何か、その役割や仕組み、市場、政策など、金融の基礎を検証、解説し、金融危機の背景や課題も考察しながら、金融の本質に迫ります。

◆ DVD ◆

各巻 約30分
各巻 42,000円 (本体 40,000円)
全10巻 420,000円 (本体 400,000円)

1 金融論を学ぶ ～金融はじめて物語～

(DVD) 400V021S



銀行、信用金庫、証券会社。私達の暮らしの身近なところにあつながら、多くの人は、それらの役割をうまく説明できないでしょう。しかし、金融論を学ぶにあたっては最低限、その基本に触れておく必要があり、その後続く中級・上級レベルの様々な領域への突破口として、その理解は極めて重要です。金融の役割とは、とりもなおさず、資金が余っているところから資金が不足しているところへ資金を融通する金融仲介機能であり、それは資産変換、リスク分散、情報生産の3つの機能が備わって初めて可能になります。手形や小切手、さらには債券、株式といった証券等々、形態の異なる資産を、貸手と借手の求める形に変換することは、金融仲介の基本中の基本です。その際、リスクが貸手と借手にストレートに及ばないようにうまく分散し、また借手の真の信用状態が貸手にきちんと伝わるよう、信用情報を生産すること、金融仲介機能の重要な役割です。この世に、金融という仕組みが登場した古代のギリシャから現在にいたるまで、金融仲介機能は不変であることを、金融論のゼミと、仮想のマネーワールドを行き来しながら、主人公の学生3人と共に学んでいきます。

2 貨幣の役割と通貨の循環 ～お金の動きを注視せよ～

(DVD) 400V022S



欲しい物を見つけたらお金を支払って手に入れる、子供の頃から誰もが実践してきたことです。では、欲しい物を買うのなら、商店街で発行している地域通貨もお金、金融論でいう貨幣といえるのでしょうか。誕生した大昔から、貨幣には交換の媒介、価値の尺度、価値の保蔵といった基本機能が備わり、その利便性により洋の東西を問わず広く普及しました。さらに時代を経て、紙幣が誕生するにいたって、貨幣は誰もがそれを商品との交換に応じるという一般的受容性や、法律に基づき、表示された数値通りの価値を持たせる強制通用力が備わり、現代にも使われる貨幣となったのです。また、金融論の視点から貨幣についてもう一つ注意すべきは、商品・サービスとの交換、すなわち実体経済で不可欠であるだけでなく、決済や、資金調達、資金運用など、実体経済がきちんと回るための潤滑油の役割を果たしながら流通していることです。この貨幣の流通は、物価の上昇と下落、すなわちインフレ・デフレにも影響を及ぼすため、金融に関わる関係者が注意深く観察している重要なポイントです。貨幣の歴史、機能、循環の仕組み、貨幣数量説、マネーストックなどについて学びます。

3 間接金融と銀行 ～信用第一は誰のため～

(DVD) 400V023S



銀行と聞くと手堅いイメージがあります。預金者はもちろん、企業経営者が商売の決済や、資金の融資などで頼りにしている、信用のおける存在が銀行です。それもそのはず、数ある金融機関の中でも銀行ほど信用を大切にしているところはありません。現金を使わず、離れた場所で支払いのやり取りを行う決済や、預金者から預かった現金を預金という形で集めて企業に融資する間接金融は、銀行の仲介機能がベースになりますが、それは何より預金者や、融資先に対する信用があつてのものなのです。預かった預金の一部を払い戻しのために残し、それ以外を貸し出しに回す信用創造が法律で認められているのも、金融秩序のために、銀行が信用を守る者であることを、多くの人が認めているからに他なりません。とはいっても銀行も一企業であるかぎり、適正な利益の確保は必要です。短期市場で調達した資金を、融資することで得られる利ざやが、銀行の重要な収益部門になります。その一方で、融資先の与信審査を厳しくするあまり企業融資が進まず、経済の停滞を招くこともあります。社会に大きな影響を及ぼす銀行の役割の基本を学んでいきます。

4 直接金融と証券市場 ～株式相場より企業を見よ～

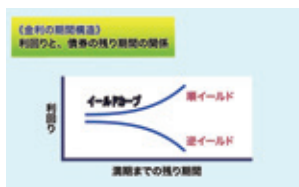
(DVD) 400V024S



野村證券の創始者「野村徳七」を始め、株式相場で財を成した人は少なくありません。株式市場に魅力を感じ、将来業務として携わりたいと考える学生が多い理由もそのあたりにあるのかも知れません。しかし、株式市場の本来の目的は投資や投機ではなく、銀行などの間接金融と異なるもう一つの企業金融の柱、直接金融の担い手として、企業にとっての資金調達の間となることです。そのために、証券会社は店頭公開や取引所への上場時に、信用の確保のために厳しい審査を実施し、それをクリアして初めて、企業は自己資本の拡充や低コストの資金調達が可能になります。投資家は、そうした企業を注視し、健全経営の企業に投資を行います。その意味で、株式市場における重要性は、相場よりも企業の経営情報の方が重いといっても差し支えありません。また、この直接金融では、株式の他に、公共債や社債などの債券が重要な位置を占めており、中でも国が発行する国債は額も多く、その取引によって金利が変動し、さらにそれが市場に影響を及ぼすため、金融関係者もその動向から目が離せません。直接金融を担う証券市場の概要について歴史をたどりながら学んでいきます。

5 金利の役割と仕組み ～1%は運命の分かれ道か～

(DVD) 400V025S



「国債の金利が上がっても下がっても暮らしに影響はない。金利で関心があるのは、銀行に預けた預金の金利だけ。」一般の学生ならそれで済んでも、金融論を学ぶ以上、そこにはどのような問題が含まれているのか、想像を巡らせることが大切です。普通預金や定期預金、そして債券など、金融商品には金利が付きます。その金利はどんな意味を持ち、どんな役割を果たすのでしょうか。短期市場における金利の動向や、債券に代表される長期金利の変動要因、調達金利を基に貸出金利が決まる仕組みなど、金利について理解を深めるに従い、預金金利が、一銀行の裁量で決められるような単純なものではないことに気づかされるでしょう。更に、国債など債券の金利には満期までの残存期間と期間毎の利回りからなる期間構造があることや、金利が上がる時は債権価格が下がり、金利が下がる時は債権価格が上がることを学ぶことで、国債金利が上がり、国債価格が下がることにどんな問題があるのかを理解できます。金利とは何か、その決定の仕組みや市場と変動要因、影響など、金融論のスタートラインである金利の基礎を、金利ワールドの中をさまよいながら学んでいきます。

《金融の奥深さを探る》

- ◆初学者を対象とし、金融論の全体を俯瞰できる構成。
- ◆金融の基礎から現実経済への応用まで理解できる。
- ◆内外で発生する金融現象も取り上げ、興味関心が深まる。
- ◆工夫されたストーリー、史実などの挿入で分かりやすい。
- ◆大学等の授業と個人学習に活用できる。



バランスのとれた金融論入門

一橋大学経済研究所教授
浅子 和美

私は数冊の経済学の入門書の出版に関与してきましたが、DVDは初めての経験です。一人で読み進める教科書と比べると、ドラマ仕立てで進む金融論の入門は、臨場感もあり理解が進むものと思います。展開が速いので、うっかり見逃してしまうこともあるでしょうが、そこはDVDなので、何回も再生して利用してください。金融論では、大学のカリキュラムによってはmonetary theory, money and banking, financial economicsと細分化されるテーマを、金融政策も含めて理論と現実の両面からバランスよく展開する必要があります。その点、本シリーズでは、ゼミでの議論、アニメによる説明、バーチャルな世界との交信、銀行等への訪問インタビューなど、DVDならではの巧みな工夫がなされており、基礎知識と現実感覚を無理なく同時に身に付けることができます。講義やゼミの補習用としてばかりでなく、個人の独習用にも広く推奨します。



体系的でわかりやすい

跡見学園女子大学教授
山澤 成康

金融論は現代社会を理解するうえで必須の学問領域ですが、とっつきにくい分野であることも確かです。このDVDでは大学生を主人公にしたドラマを中心に据えています。アニメーションや実際の金融機関の映像なども織り交ぜて、飽きのこない構成になっています。金融関連のニュースは、毎日洪水のように入ってきます。それらを一旦受け入れることは必要ですが、体系的な知識として身に付けなければ役に立ちません。このDVDを全巻通して見れば、体系的な知識が身に付きます。1巻約30分の長さは、大学の講義との連携を考慮しています。こうした教材を使う際、私は講義を一通り終えた後に見せることにしています。同じことの繰り返しになる面もありますが、「いろんな人が同じことを言う」というのは意外と学生に効果があります。ぜひ試してみてくださいと思います。

6

コーポレートファイナンス ～最適資本構成をめざす～

(DVD) 400V026S



企業にとって、日常の活動を続けていく上で資金調達や余剰資金の運用は不可欠です。それを戦略的に実行することで、キャッシュフローを最大化するのが企業財務、コーポレートファイナンスです。しかし、ただやみくもに行ってもうまくはいきません。銀行融資や社債発行など負債(デットファイナンス)による資金調達と、株式市場(エクイティーファイナンス)からの自己資本による資金調達をいかに適切に組み合わせるかといった最適資本構成がコーポレートファイナンスでは問われるのです。そのポイントになるのは資本コストです。銀行融資における金利、そして株式の配当、キャピタルゲインなど、いわゆる投資家の期待リターンが資本コストにあたります。この資本コストを上回る利益を出さなければ、企業が資金調達する意味は失われるのです。更に、この最適資本構成を把握するためには、MM理論で問われる税制や情報の非対称性への理解も欠かせません。投資家の期待リターン、すなわち資本コストの最小化を図るには、情報のディスクロージャーも重要になります。コーポレートファイナンスの重要性について、経営者の生の声を聞きながら考察します。

7

為替の仕組みと影響 ～交換が世界を変える～

(DVD) 400V027S



今や、誰もが当たり前に行っているネットを使った買い物。それを可能にしている為替の仕組みを知ることも、金融論の重要な分野の一つです。国内の為替取引ではもちろん、通貨の異なる外国間での為替取引では、為替の交換レートが絡むために、取引が滞りなく行われるにはコルレス勘定をはじめとする様々な仕組みが必要になります。ところでこの為替、そのレートが毎日ニュースなどで報道されるように、経済にとって重要な指標となります。その数字が輸入関連企業や輸出関連企業の利益に直結するため、為替相場の動きから目が離せないのです。そのため、銀行など為替の取引を行う金融機関や企業では、為替の変動要因の分析に余念がありません。更に、この為替レートは二国間の名目レートにとどまらず、世界中のレートを勘案した実効レート、物価の上下動を勘案した実質レートなどがあり、それらについての理解も必要になります。ネットを使い、ボタン1つで出来る海外からの買い物も、その裏では為替の複雑な仕組みが働いているのです。国内外の経済に大きな影響力を持つ為替について、実際の銀行に取材しながら学んでいきます。

8

資産運用と金融リスク ～リスクとリターンの攻防～

(DVD) 400V028S



ハイリスク・ハイリターンは金融商品の基本です。元本割れのリスクが高い商品ほど、リスク・プレミアムと呼ばれる分だけ高い金利がつかからず。一般の消費者は、そうしたリスクを避けて銀行預金などを利用しますが、それでは思うようなリターンが期待できないことから、投資家は、投資技術にたけた専門家を通して、高いリターンが期待できるリスクマネーへの投資を図ります。その一つが、一般にファンドと呼ばれる投資信託です。そこではファンドマネージャーと呼ばれる投資のエキスパートが、ポートフォリオ選択よろしく様々なリスク回避(ヘッジ)の手法を使いながら、株式(ファンド)や公社債(ファンド)など数多くの種類の金融商品を組み合わせ、最小のリスクで最大の利益を得ることに努めます。また、金融商品の中には、リスクヘッジを目的としたものでありながら、それ自体が投資の対象となり、なおかつリスク要因となってしまうデリバティブ商品もあり、それらのファンドマネージャーには、相当のスキルが求められるのです。そんなファンドマネージャーへの道をたどりながら、資産運用と金融のリスクについて考えていきます。

9

日銀の役割と金融政策 ～世界は不況に何を学ぶ～

(DVD) 400V029S



世界恐慌の引き金となった1929年のウォール街の株の大暴落に対して、60年後に起きたそれを上回る規模の株の大暴落は、最終的に大きな混乱には発展しませんでした。その理由は、市場の混乱を回避するために世界の中央銀行が協調して金融市場に積極介入したからです。金融市場に対する中央銀行の影響力の大きさが示されたエピソードです。それは戦後の日本経済の中で、日銀が実施してきた金融政策にも共通します。高度経済成長期にインフレや国際収支の不均衡回避に向かった日銀の金利政策。安定成長時代から本格的に始まった日銀の短期金融市場での金融調節、そしてバブル経済とバブル崩壊を受けて、日銀がとったゼロ金利政策と量的緩和策。いずれも、時代の流れの中で変化する金融環境に合わせて進められたものであり、実効性の検証だけでなく、そこにどんな意味があったのかをきちんと分析することは、金融論を学ぶにはとても重要なことです。銀行の中の銀行、あるいは通貨の番人と呼ばれる日銀が果たしてきた役割と、その金融政策の変遷を、戦後の日本経済と照らしながらまとめたレポートを通して、日銀の役割と金融政策について学びます。

10

金融危機と金融秩序 ～危機は変化へのチャンス～

(DVD) 400V030S



2002年に本格化された欧州統一通貨(ユーロ)の導入は、当初こそ世界から多くの期待が寄せられましたが、経済力の格差を残したままの通貨統一による問題が次第に露呈し、ギリシャの債務危機という金融危機にまで発展しています。そのわずか前には、サブプライムローンに端を発するアメリカ発のリーマンショックが、世界経済を大混乱に陥れました。このように近代に突入して以降、世界は数々の金融危機、それを起因とする恐慌に見舞われ、社会は大きな影響を受けてきたのです。1990年代に起きた日本のバブル崩壊も然り。そうした金融危機の背景にある共通項に注目し、危機回避の視点からその要因を探ります。例えば大きな金融危機には、空間や時間を超えて危機の連鎖が生じ、リーマンショックとバブル経済崩壊には、過剰な投資、リスクテイクという共通項が見られます。何故、世界は同じ失敗を繰り返すのでしょうか。失敗を糧にした新しい金融秩序の構築のために、世界はどのように協調しているのでしょうか。日米欧で発生した金融危機を検証し、プレゼン形式を使いながら、金融危機と金融秩序について考えていきます。



協力企業（敬称略 50音順）

JX日鉱日石金属(株)
(株)朝日新聞社
アップル・ジャパン(株)
跡見学園女子大学
グーグル(株)
スズキ(株)
ソニー(株)

日本銀行金融研究所貨幣博物館
(株)日本経済新聞社
日本マイクロソフト(株)
パナソニック(株)
フェデラルエクスプレス コーポレーション
フォード・ジャパン・リミテッド
(株)報知新聞社

本田技研工業(株)
(株)みずほ銀行
みずほ証券(株)
みずほ信託銀行(株)
(株)みずほフィナンシャルグループ

企画・制作・発売



株式会社 サン・エデュケーショナル

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-22-8 朝日屋ビル9F
TEL.03(5428)5675 FAX.03(5428)5674
<http://www.sun-edu.co.jp>